



2024年11月12日

各位

会社名 株式会社トランスジェニックグループ
代表者名 代表取締役社長 福永 健司
(コード番号 2342 東証グロース)
問合せ先 取締役 経理財務部長 渡部 一夫
(電話番号 092-288-8470)

通期連結業績予想の修正及び配当予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向を踏まえ、2024年5月10日付で公表しました2025年3月期の通期連結業績及び期末配当予想（以下、「前回発表予想」といいます。）について下記のとおり修正することといたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正について

2025年3月期通期連結業績予想数値の修正（2024年4月1日～2025年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 13,500	百万円 350	百万円 250	百万円 100	円 銭 6.03
今回修正予想（B）	12,500	△110	△180	△210	△12.61
増減額（B－A）	△1,000	△460	△430	△310	
増減率（％）	△7.4	－	－	－	
（参考）前期実績 （2024年3月期）	13,083	89	108	4	0.24

（修正の理由）

創薬支援事業につきましては、株式会社安評センター（以下、「安評センター」といいます。）において、高付加価値・差別化可能な試験の獲得に注力しました。この結果、中期発がん性試験などの新規サービスの受注は増加しましたが、試験完了予定が来期以降となる試験が多かった一方で、強みであるTGR試験（Transgenic Rodent Gene Mutation Assay）の上半期受注額が想定よりも大幅に（約150百万円）少なかったため、当期完了予定の試験及び受注額が想定より少なくなるとともに、粗利率も低下する見通しとなりました。また、遺伝子改変マウス受託作製等のサービスについても、主たる顧客であるアカデミアの研究者に対する国家予算縮小傾向の中で想定通りの受注を獲得することができませんでした。株式会社新薬リサーチセンターにおいても、臨床試験の受注は好調に推移しましたが、当期完了予定の試験が想定より少なくなったほか、中央研究所（北海道恵庭市）の非臨床事業の安評センターへの移管作業が前期に完了せず、顧客依頼により保管していた試験資料の返却・移管作業、研究所設備の撤去作業等が当期も継続し、想定以上のコストが発生する見通しとなりました。

このような状況を踏まえ、業績予想を見直した結果、当期の創薬支援事業の売上高は前回発表予想を500百万円下回る2,000百万円となる見込みとなり、営業利益^(※)も前回発表予想を380百万円下回る280百万円の損失となる見込みとなりました。

投資・コンサルティング事業につきましては、急速な円安の進行による海外からの商品調達コストの上昇を踏まえ、価格転嫁の動きを進めておりますが、その効果が十分に生じるのは主として来期以降と見られることから、輸入販売を営む業態の子会社の利益率は低下いたしました。また、物価上昇傾向の中で消費者の購買意欲が後退したため、Eコマースによる小売販売は想定より苦戦いたしました。

このため、業績予想を見直した結果、売上高は前回発表予想を 500 百万円下回る 10,500 百万円となる見込みとなり、営業利益^(※)も前回発表予想を 80 百万円下回る 370 百万円となる見込みとなりました。

^(※)各セグメントに配分されない費用等の調整額を含まないセグメント利益であります。

以上の結果、連結売上高は前回発表予想を 1,000 百万円下回る 12,500 百万円となる見込みとなり、連結営業利益につきましては前回発表予想を 460 百万円下回る 110 百万円の損失となる見込みとなりました。

このため、連結経常利益につきましても、前回発表予想を 430 百万円下回る 180 百万円の損失となる見込みとなりました。また、上記の見込みを前提に税金費用の見積もりを見直した結果、親会社株主に帰属する当期純利益は、前回発表予想を 310 百万円下回る 210 百万円の損失となる見込みとなりました。

2. 配当予想の修正について

	年間配当金		
	第 2 四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭
前回発表予想	0.00	3.00	3.00
今回修正予想	—	0.00	0.00
当期実績	0.00	—	—
(参考) 前期実績 (2024 年 3 月期)	0.00	3.00	3.00

(修正の理由)

期末配当につきまして、上記の通期連結業績予想を踏まえ無配とさせて頂く予定です。

(注) 上記の業績予想は、本資料の発表日において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

3. 今後の対応について

当社グループを取り巻く事業環境は、厳しい状況が継続しております。この厳しい事業環境に適合し、更なる成長を実現すべく、事業拠点、人員配置の見直し等を通じた経営資源の最適配分について早急に検討し、速やかに実行する方針です。

以上